

5. 予算及び主要課題

水産試験場

事 業 名	平成4年度予算
水産試験場運営費	27,075千円
試験研究調査費	32,533
(フナ・モロコ資源増大対策研究費)	(7,000)
(湖産アユ魚病対策研究費)	(2,000)
(アユ種苗健病化対策調査研究費)	(500)
(ビワバス対策総合調査研究費)	(700)
(バイオテク応用技術開発研究費)	(1,700)
(利用加工技術開発研究費)	(1,400)
(温水魚資源管理基礎調査研究費)	(3,000)
(漁業情報処理システム開発費)	(8,991)
(増養殖技術研究費)	(4,090)
(漁況予報調査研究費)	(1,566)
(漁場環境調査研究費)	(1,586)
水産技術普及指導費	308
人 件 費	168,681
計	228,597

水 産 課

事 業 名	平成4年度予算
栽培漁業総合推進対策費	
(シジミ増殖技術開発事業費)	(10,000)
漁場環境維持対策費	
(漁場環境保全技術開発試験費)	(5,000)
養殖漁業振興事業費	
(魚類防疫対策事業費)	(4,400)
(ポストハーベスト農業等残留防止対策調査事業費)	(1,800)
計	21,200

平成 4 年 度 主 要 研 究 課 題

事業名	調査研究内容	調査研究課題
1. 湖産アユ漁病対策調査研究	湖中アユに突発的に発生するピブリオ病（原因菌はピブリオ・アンギュイラム）による大量斃死の発生要因を解明し、防疫対策の手がかりを得る。	(1) ピブリオ病細菌の湖中における生理・生態研究 (2) 湖産アユの生理・生態と発病斃死との関連性の検討 (3) 琵琶湖環境要因との関連性の検討
2. セタシジミ増殖技術開発研究	漁獲量の減少傾向が著しいセタシジミの資源回復を図るため、種苗の大量安定生産法と、天然水域における中間育成場の造成法、効果的な中間育成法について検討を行い、資源管理型増殖技術の実用化を促進する。	(1) 大量種苗生産技術の開発 (2) 中間育成場造成技術の開発 (3) 中間育成技術の開発 (4) 放流後の追跡調査
3. フナ・モロコ資源増大対策研究	ヨシ地帯等の良好な産卵繁殖場所の減少と魚食性の強いビワバス・ブルーギル等外来魚の大量繁殖により減産の一途をたどっているニゴロブナ・ホンモロコの資源増大を図るため、ヨシ帯の繁殖効率の向上技術の開発と現在の琵琶湖の生態系に即した栽培技術の改良開発試験を促進する。	(1) 産卵繁殖場の環境改善技術の開発 (2) 放流種苗の大量生産技術の開発 (3) 放流技術の開発 (4) 法流効果向上技術の開発
4. 温水漁資源管理基礎調査研究	種苗放流や増殖場造成等の増殖対策が講じられている温水魚（ニゴロブナ・ホンモロコ）の総合的な資源管理を図り、適正な漁獲活動を維持するための調査研究を進める。	(1) 資源量推定基礎調査 (2) 増殖効果判定手法の開発 (3) 外来魚の資源動向把握 (4) 再生産機構の解明 (5) 適性漁獲量の検討
5. 漁場環境保全対策研究 (湖沼沿岸帯浄化機能改善技術開発試験)	湖沼沿岸帯（ヨシ地帯、砂浜、人工護岸）における水質浄化機能に関する諸要素の役割を総合的に定量評価し、漁場環境保全対策の資料とする。	(1) 湖岸の水の動態把握 (2) 水質要素の現存量の把握 (3) 浄化機能の定量と評価